


スペイン		首都	マドリード
 <p>「血と金の旗」といわれ、中央の黄は 6 世紀頃の西ゴート王の勇敢さをたたえる色といわれている、左側の紋章はイベリア半島にあった 5 つの王国の紋章を組み合わせてつくり、両側の柱は「ヘラクレスの柱」といわれスペインと中南米の領土を表している。</p> <p>独立：1492 ムーア人支配下より脱し、領土統一を完了 国連加盟：1955/12/14 政体：立憲君主制</p>	国の概要	国土	面積 50 万 6,000 km ² (日本の 1.4 倍) イベリア半島の 70%を占め、大西洋と地中海に面している。北東のピレネー、北のカンプリア、南のシエラネバダ、シエラモレラの 4 山脈に囲まれ、大部分がメセタとよばれる標高 600m～800mのテーブル状の高原である。平地は東部のエブロ川、南西部のグアダルキビル川河口域に開ける程度である。地中海上のバレアレス諸島・大西洋上のカナリア諸島、さらに北アフリカのセウタとメリリャを含む。
		人口	4,410 万人 (2007 年)
		言語	スペイン語 (公用語)、カタルニャ語 (公用語)、ガリシア語 (公用語)、バスク語 (公用語)
		通貨	ユーロ
		気候	全土が温帯であるが、大きく 3 つに分けられる。大西洋に面した部分は、夏冷涼で、冬温暖な海洋性気候で降雨は年間を通して平均している。中央高地は大陸性で寒暑の差が大きく乾燥している。地中海沿岸は典型的な地中海性気候で、夏は高温乾燥、冬は温暖である。
		宗教	カトリック 99%
教育制度の概要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園 (4 カ月～)、幼稚園 (3 歳～5 歳)、小学校 6 年間 (6 歳～12 歳)、中学校 4 年間 (12 歳～16 歳)、高校 2 年間 (17 歳～18 歳)、大学 5～6 年間である。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育は 6 歳～16 歳までの 10 年間である。 ・その年の 12 月 31 日までに満 6 歳になる者は、その年の 9 月第 2 週に第 1 学年に入学する。 ・無償である。 	
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・教育法に定められた基本枠組みの中で、17 の自治州に教育制度に関する自治を認めているので、各自治州によってカリキュラムの内容が異なる。 ・学校年度は 9 月第 2 週～6 月第 3 週であり、3 学期制を採用している。1 学期は 9 月第 2 週～12 月 20 日ごろ、2 学期は 1 月 8 日～3 月末または 4 月上旬、3 学期は 3 月末または 4 月上旬～6 月第 3 週である。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・公立の授業時間は 8：30～14：00、私立は 9：00～17：00 である。年間授業日数は 160 日、土日が休みの完全週 5 日制である。 ・カリキュラムは各教科の教授会によって決められ、教材の選択が行われる。 ・6 歳から外国語教育が導入されている。 ・道徳と特別活動は教育課程に位置づけられていないが、宗教（選択）の時間がある。 ・朝自習、健康観察、学級担任との顔合わせ（朝の会）などはなく、遅刻してくる生徒も多い。 ・教科書は無償ではなく、使い回しをすることもある。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育修了後の進学先は高校又は中等職業学校に分かれていて、それぞれ 2 年間通学する。高校への進学率は 80%位である。 ・大学に進学するには日本のセンター試験にあたる国家試験を受ける。その国家試験の成績とそれまでの学業成績との総合評価によって進学する大学が決まる。 ・大学・短大に進学を希望しない者は技術を習得する専門学校へ進める。 ・高等学校 1～2 年を修了すると全国統一大学入学選考試験を受験できる。なお、短大は 3 年制、大学は 4～5 年制である。 ・25 歳以上の者のための大学入学試験もある。
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2 歳児対象の幼稚園と 3～5 歳児対象の幼児学校の 2 段階に分かれる。 ・第 2 段階の幼児学校は義務ではないが、現在 100%近くが就学している。文字等も教える。 ・公立の場合は、初等学校に併設されており、無料である。私立の場合は幼稚園の段階から入学が可能で、費用がかかる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた能力をもつ子どもたちには、その能力を伸ばすための英才教育が行われている。 ・外国人移民の急増が新たな社会現象となっている。文化・習慣・宗教などが異なる移民子女がうまくクラスにとけこめるようにすることが、最近の重要課題の一つとなっている。
休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みは 6 月 22 日～9 月 1 日か 2 日で、冬休みは、年末年始の 2 週間（クリスマス休暇）、春休み（イースター休暇）

学 校 生 活		がある。
	学級担任制、 教科担任制等	・小・中学校は一般的には教科担任制である。
	飛び級、落第の有無	・小学校から飛び級がある。 ・小学校3年生から落第がある。夏季休業のはじめに追試があり、それに通らなければ、9月にもう1度追試を行う。2教科以上あれば、進級できない。
	教育内容の差異	・外国語授業は、小学校1年生からあり、英語かフランス語の選択制になる。 ・放課後にハンドボール、バレーボール、フットボール、コンピュータ等のクラブ活動がある。
	学校行事の特徴	・入学式、卒業式は日本と同じようにある。 ・体育祭は通常行われる。 ・卒業旅行は最終学年の6月に行われる。
	給食	・それぞれの学校によって異なるが、給食（有料）のある学校もあれば、自宅に帰る場合もある。 ・公立校では原則として、昼食は帰宅後に自宅でとる。休み時間に軽食やおやつを食べる。 ・私立校では昼食は学校が準備するものを学校で食べる。
	チャイムや号令	・チャイムは全ての授業の切れ目に鳴らされる。
	教室における行動様式 等の違い	・1クラス25人で、一人ひとりの個性を大切に伸ばすことを教育の原点に少人数指導の充実を図っている。 ・宿題は週に何回か出される。 ・冬季休業中は宿題が出されるが、夏季休業中は宿題を出されない。
	校則	・学校でも家庭でも、その行動様式の規範として、「だれも見ていなくても、神のみぞ知る」という厳然たる「神をよりどころ」とした価値基準が行動規範になっている。 ・公立校では、制服はないが、作業着のようなスモックを着用するところもある。 ・私立校では、普通制服を着る。
保護者の授業参観、保護者会、PTA	・基本的に学校教育と家庭教育の分担が明確であり、生活指導上の問題に教師が積極的に関与することはあまりない。 ・両親や保護者の学校への依存度は比較的高く、学期末には両親・保護者と教師の個別面談が行われ、PTA活動も活発である。学校からの要請があれば手伝う。教師との懇談会も行	

		<p>われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観は定期的に行われることはない。 ・地域住民と学校との関係は比較的密接である。 ・TUTOR 制というものがあり、各生徒に後見教師がつき、親が子どもの学習面、生活面での相談ができる。
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・7 時頃起床し、朝食後登校、下校後は昼食をとり、友達と遊ぶ。宿題をして、9 時ごろ夕食をとり、10 時～11 時頃寝る。 ・小学生は、原則として保護者が送り迎えをする。
	その他	
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ガリシア、バスク、カタルニア、バレンシア等の地方ではそれぞれの地方言語での授業もあるが、一般的にはスペイン語での授業となる。 ・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「シ」と「チ」の区別がつかない、「ヤ行」と「ジャ」行が混同してしまう、「ハ行」の子音の脱落がみられる。
	宗教上の忌避事項	
	指による数え方、計算方法の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・人差し指から数える方法が主流だが、親指から順に小指に向けて数えるやり方もある。 ・「6」を表す場合、日本では左手を開いた手のひらに右手の人差し指で「1」を添えるが、右手を開いた手の甲に左手の人差し指で「1」を添える。 ・おつりの出し方が違う。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食は1日の食事の中心で量が多く、夕食は軽食程度である。朝食は7時～8時、昼食は午後1時～、夕食は午後9時からである。
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・レンガ、コンクリート、石の家が多く、木造はほとんどない。安全確保のため、オートロック等の装置がついていることが多い。 ・室内では、室内履きを履くことが多い。 ・浴室とトイレは一緒である。
	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・車は左ハンドルで、右側通行である。制限速度は日本より緩やかである。カーブミラーはあまり見かけない。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校以下の生徒たちの間では、日本のアニメやゲーム機の人気が高く、高校生になると、奈良や京都などの有名な観光地や高度なテクノロジーに関心を持つ生徒が見られる。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・スペイン教育事情見聞録・・・・・・・・マドリッド日本人学校 加瀬 忠
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・井上恵子
- ・マドリッド日本人学校（月刊誌「海外子女子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育財団
- ・日本語指導教員より